

スポーツ指導者のモラルに関する事例研究（５）

—体育社会学を受講する学生へのインタビューをもとに—

Case study concerning sports leader's morality (5)

—Based on the interviews to the students who attend the Physical education sociology lecture—

体育学部体育学科

山本 孔一

YAMAMOTO, Koichi

Department of Physical Education

Faculty of Physical Education

教職センター

塩原 正長

SHIOHARA, Masanaga

Section of Teaching Profession center

教職センター

西村 信紀

NISHIMURA, Nobunori

Section of Teaching Profession center

体育学部体育学科

一柳 昇

ICHIRYU, Noboru

Department of Physical Education

Faculty of Physical Education

体育学部体育学科

小牟礼育夫

KOMURE, Ikuo

Department of Physical Education

Faculty of Physical Education

キーワード：リーダー，モラル，体罰

Abstract：“The title is unrelated to the ability as the leader. Enthusiasm and ability to get things done are criterion for the leader.” Tomiaki Fukuda who served as the leader of the Beijing Olympics group of Japanese athletes in 2008 asserts it. The women's wrestling league that took notice of nobody at that time was voluntarily started up by Fukuda, and the wrestling diplomacy was developed. After it had assumed the position of the vice-chairman of the world league, the Olympics official program adoption of the women's wrestling was appealed to chairman Samaranchi of IOC at that time. The words of Fukuda who has executed everything have the persuasive power. The sporting world is supported by a lot of passionate persons. Thus, it is important to bring up the teacher who has enthusiasm even to the world of education.

In the previous work, the thesis based on the corporal punishment consideration investigation is seen from department of education that educates many future teacher candidates. Moreover, there are very few researches on the sports leader compared with the instructional method in the present situation. In the field of the sports research, the instructional method is a center of the research. An essential problem definition of “What are the roles of leader?” is not so seen. Today, a lot of problems concerning the leader surface, and a new morality formation are needed. This case study involves students who will aim to become elementary school teacher, junior high school health gym teacher, and the sports leader in the future.

The purpose of this study is to identify the sports leader's new roles by comparing the sporting events and individual/team race, and bringing students' valuable true opinions. The analysis of this study is also to become basic material of the research continuance in the future.

Keywords：Leader, Moral, Corporal punishment

I. はじめに

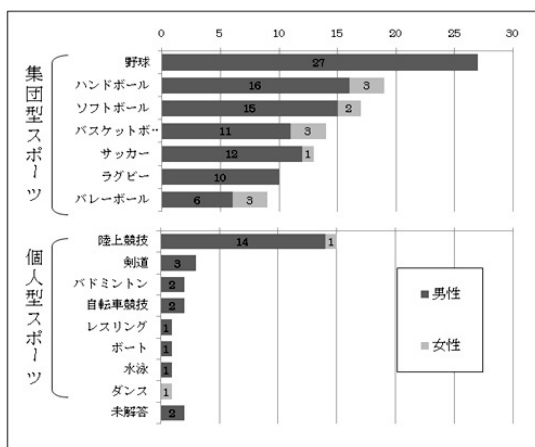
「指導者としての力量に肩書きなど関係ない。必要なのは、その人の教育に対する情熱と実行力。それこそが指導者としての判断基準」。2008年北京オリンピック日本選手団団長を務めた福田富昭はそう言い切る。当時誰も相手にしなかった女子レスリング連盟を自ら立ち上げ、レスリング外交を展開し、世界連盟の副会長に就任後、当時のIOCサマランチ会長に女子レスリングのオリンピック正式種目採用の働きかけをした。すべてを実行してきた福田の言葉だけに説得力が違う。スポーツ界は多くの情熱家で支えられている。学問の世界でも情熱のある先生を育ててはいけない。

先行研究では、将来教員になる可能性の高い教育学部を対象に体罰意識調査に基づく論文が見受けられる。また、スポーツ指導者に関する研究は、指導方法の研究に比べて非常に少ないのが、現状である。とくに、スポーツの研究分野では指導方法つまりどのように指導するかというテーマが研究の中心であり、「指導者とは何か」という本質的な問題定義はあまり見られない。今現在、指導者に関する多くの問題が浮上し、新たなモラル形成の必要性が求められている。今回事例研究の場となるのは将来、小学校教師や中学校・高等学校の保健体育教師およびスポーツ指導者を目指す学生である。

本研究の目的は、体育社会学的視点で、今回の調査で体罰に関する意識についての競技種目や個人・団体種目との比較を行い、学生の貴重な生の声をまとめることによりこれからのスポーツ指導者の新たな役割特に指導者に求められるモラルとは何かを模索し、今後の研究継続の基礎資料となることを目的とする。

II. 高校時代のクラブ活動の顧問履歴

1. 性別



《考察》

- どのスポーツも圧倒的に男性が多い

2. 年齢

		20代	30代	40代	50代	60代以上
集団型スポーツ	野球	4%	38%	27%	31%	
	ハンドボール	21%	21%	53%	5%	
	ソフトボール	12%	35%	35%	18%	
	バスケットボール	7%	29%	43%		21%
	サッカー	23%	46%	15%	15%	
	ラグビー		20%	70%	10%	
	バレーボール		56%	33%	11%	
個人型スポーツ	陸上競技	13%	38%	44%		6%
	剣道		33%	67%		
	バドミントン				50%	50%
	自転車競技			50%	50%	
	レスリング			100%		
	ボート		100%			
	水泳		100%			
	ダンス			100%		

《考察》

- 全体的に30代、40代が最も多い。

3. 担当教科

		保健体育	その他	未解答
集団型スポーツ	野球	56%	41%	4%
	ハンドボール	63%	37%	
	ソフトボール	71%	29%	
	バスケットボール	57%	43%	
	サッカー	69%	23%	8%
	ラグビー	60%	40%	
	バレーボール	56%	44%	
個人型スポーツ	陸上競技	75%	25%	
	剣道	67%	33%	
	バドミントン	50%	50%	
	自転車競技	50%	50%	
	レスリング	100%		
	ボート		100%	
	水泳	100%		
	ダンス		100%	

《考察》

- ・圧倒的に保健体育教員が多い。
- ・バスケットボール、ラグビー、バレーボール、バドミントン、自転車競技の顧問の約半数が保健体育以外の教科を担当している。

4. 教 員 歴

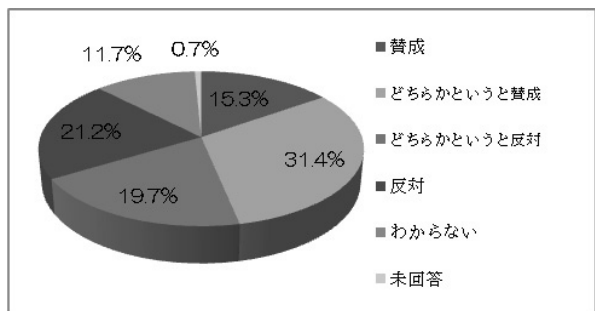
		10年未満	10年以上20年未満	20年以上30年未満	30年以上	未解答
集団型スポーツ	野球	27%	38%	35%		4%
	ハンドボール	37%	58%	5%		
	ソフトボール	31%	50%	13%	6%	6%
	バスケットボール	21%	50%	7%	21%	
	サッカー	58%	25%	17%		8%
	ラグビー	10%	40%	50%		
	バレーボール	22%	56%	22%		
個人型スポーツ	陸上競技	31%	50%	13%	6%	
	剣道	33%		67%		
	バドミントン			100%		
	自転車競技		50%	50%		
	レスリング			100%		
	ボート		100%			
	水泳		100%			
	ダンス		100%			

《考察》

- ・10年以上20年未満の範囲が多い（年代が30代、40代）
- ・サッカーは10年未満の若い教員が多い

Ⅲ. アンケート及びインタビューの結果（学生）

1. 体罰について



《考察》

- ・賛成、どちらかという賛成が半数を占める。

賛成（15.3%）
・殴られて当たり前の家で育ったから。口だけでは指導できない場合はよい。人生において体罰はよい経験になる。
・精神的に強くなれると思う。
・時と場合によるが、それで人が目覚めたり頑張れる可能性がある。精神的にも強くなれる。
・しばかれて初めて気付くことがあると思う。
・自分を成長させてくれると今実感できているから。

- ・殴られて気付く。
- ・ケースにもよりますが時として必要だと思う。
- ・体罰をしないと気付かないこともあるし精神的に鍛えられる。
- ・人を変え成長させるために必要。
- ・体罰の経験があり体罰を受けないように部活をした結果上達した。
- ・気の引き締めなどの際良いと思う。
- ・道具を粗末に扱った時など、間違ったことをしたときはいいと思う。
- ・言葉だけでは伝わらないこともあるから。
- ・口でわからなければ殴るしかない。
- ・言葉でわからないことを教えるため。
- ・長い間怒られるのであればその分殴られて済ませたい。

どちらかという賛成（31.4%）

- ・時と場合によるが必要な場合もある。（7名）
- ・信頼関係があればよい（4名）
- ・叩かれるのは普通だと思ったから。ただし今は昔と環境が違うので考えたほうがいい。
- ・自分自身が受けて自分を変えることができたし、強くなったから。
- ・スポーツのよいところは礼義正しいことや粘り強いこと、中途半端にするよりビシっとしたほうがいいと思う。
- ・叩かれて気付かされたこともあったので、たまになら良い。
- ・その子に示しをつけるためや、将来の自分の成長につなげることができるためならばどちらかという賛成。
- ・口だけでは分からないと思うし、スポーツの競技以外（礼儀など）にも教えるためには必要だと思う。
- ・先輩や指導者に叩かれて成長させてもらったから（反発心から野球にぶつけられたから）
- ・人生に一時期そういうことがあっていいと思う。
- ・その子が納得するようならばいいと思う。
- ・体罰のようなもので気合いを入れてもらって、それによって吹っ切れる部分があるから。
- ・顧問が第二の親になっていると思う。卑怯なことをしたときは体罰があっても当たり前だと思う。
- ・口で言っても分からない、言うことを聞かない、そういうときは仕方ない。その後のフォローも大事。
- ・理由があっても一方的な体罰はだめだと思う。
- ・集団活動のためひとりが迷惑をかけると全体に及ぶため。
- ・体でぶつかることも必要。
- ・体罰により気付かされた部分もあるため。
- ・言ってもわからないから。
- ・意味ある体罰なら効果がある。
- ・ある程度の体罰はあってもよい。
- ・受けた側が体罰と思うか思わないかの違いだと思う。

<ul style="list-style-type: none"> ・体罰をうけてわかることがあるから。 ・仕方ない時もあるから。 ・受けたことによって意識が変わった。 ・叩かれて気合いが入ったから。 ・相手にもよと思う。 ・基本的にはしてはいけないが場合によと思う。
どちらかという反対 (19.7%)
<ul style="list-style-type: none"> ・叩いても言うことをきかず教師は実力がない。どうして怒こられたかを考えさせることが大切。 ・身体的や精神的に苦痛を与えるものなのでよくない。 ・基本的に反対だが言葉だけで伝わらないときはしょうがないと思う。 ・基本的に反対であるが、時と場合によってはあり得る。 ・言ってきくなら体罰はいらない。しかし体罰を受けた生徒は一生心にのこるので、できればしないほうがよい。 ・反対だけどその時の状況次第。 ・体罰なしの指導もできると思うから。容易に体罰を行うことはよくないと思う。 ・選手が活動の中心で、監督はサポートやアドバイスを与える。手を出すのは指導者ではない。 ・自分が見本となり教育していけば必要ないと思う。 ・殴られたり蹴られたことがあるから。 ・生徒になめられるので時には必要。 ・あまり良いようにならない。 ・いかなる理由があっても体罰はいけない。 ・体罰してもプラスにならない。 ・殴っても上手くなるのはスポーツではない。でも走らせたりするのは有効。 ・体罰で相手が変わるなら良いが、変わらなければ意味がない。嫌な気持ちだけが残る。 ・する側と受ける側のとらえ方で大きく変わるが、手を出すことは必ずしも最善策だとは思わない。 ・本当にその生徒に対しての愛情があればいいと思うが、あまり良くないと思う。 ・教師として体罰はよくないから。 ・信頼関係があり、受ける側が体罰と受け取らなければいいと思うから。 ・体罰を受けたことがないので体罰の指導が分からない。 ・できるなら痛いことはしたくないから。 ・体罰をしてはいけないと法で決まっているから。
反対 (21.2%)
<ul style="list-style-type: none"> ○ 体罰で指導しなくても他の方法で指導できると思う。 ○ 殴っても子どもは成長しないと思う。 ○ クラブ活動はいい思い出にしたい。 ○ 暴力で教えずともほかに方法はある。 ○ クラブ活動は体罰とはかかわりのない活動だと思う。

<ul style="list-style-type: none"> ・基本的に駄目だと思う。 ・楽しくやってもらいたい。押しつけるより自主性を持ってほしいから。 ・ダメと決まっているから。 ・やる気をなくしたり、親に言って問題になる。 ・体罰で教えるというのはおかしいから。 ・強くする方法はたくさんあるので。 ・体罰によりクラブ活動が嫌いになるから。 ・体罰の経験はあるが何も変える気にならないしイライラするだけだから。 ・手を出さなくても怖い先生がいれば十分だと考えている。 ・話でなんとかしたい。 ・体罰の経験がない、何を伝えたいのか理解することができず顧問の指導のおかげで大きく成長できた。 ・経験がなく受けなくてよかったと思っているから。 ・やりたくなければしなければいい。 ・体罰はいけないし何も変わらない。 ・不愉快だから。 ・体罰を受けると萎縮しパフォーマンスがおちる。 ・強制からは何も生まれないから。 ・スポーツはやらされるものでなく、自ら楽しくやってほしいから。 ・人は体罰で技術面が伸びるわけではないから。 ・暴力による制裁は何も生み出さないから。 ・体罰からは何も生まれない。
わからない (11.7%)
<ul style="list-style-type: none"> ・手を上げたほうがいい時もあるが、本当にいい解決法かは分からない。 ・どうしても必要な時もあると思うから。 ・ケースバイケース信頼関係があつてこそ体罰が成り立つ。 ・皆真剣に練習しているため体罰を受ける生徒がいらないと思う。 ・生徒により指導方法が違う場合によと思う。 ・チームの力強さにつながっていたこともある。 ・内容による。

2. 今までクラブ活動中、一番印象に残っている体罰について

どのようなことをされて→どう思ったか

野球部
<ul style="list-style-type: none"> ○ バケツで水をかけられた。暴力をふるわれた。20Kmのランニング→死ぬかと思った。 ○ ケツバット→なんでオレが・・・ ○ 殴られた→キャプテンだったので自分の責任だと思った。 ・パンチ→痛かった。

<ul style="list-style-type: none"> • 全裸ランニング→ありえない。 • 殴られた→すっきりした。 • バットで殴られた。→気合いが入った。 • 先輩がグラブを投げつけそれを監督が怒り体罰をした。→監督が正しいと思った。 • 何発か殴られた。2時間休憩なしのノック→悔しかったが、キャプテンだったので部員に見せつけるために頑張った。 • 暴力や暴言→非常に嫌な思いをした。 • バットで頭を殴られた→死ぬかと思った。 • 殴られた→痛い、怖いという気持ち。 • そこそこ殴られた→痛かった。 • 頬を殴られた→悔しい気持ち。悪いことをするといけなと思った。ムカついた。 • 蹴られた→痛かった。 • 殴られ叩かれ蹴られた→やりすぎ・いたそう。 • ノックバットで殴られた→自分が悪いから。
ハンドボール部
<ul style="list-style-type: none"> • 殴る、蹴る→暑いし、しんどいし、イライラしていたと思う。 • 往復ビンタ 殴られた、蹴られた→とても悔しい、なんで今私がここにいるのだろうと思った。 • 全員で集合しているとき端から叩かれた→腹が立ってけど悔しくて頑張ろうと思った。 • 殴られたのを見た→やばい。 • ビンタ→そこまで打たなくても。自分が悪いからしょうがない(いつものことだった。)やるしかないと思った。悔しい。 • 口の中が切れるまで殴り続けられた→次からミスをしたように。やる気がなくなった。なんでやる・・・ • 顔をボコボコに殴られ口内が切れた→晩御飯残せないのに、口の中がしみる。 • スコップで殴られた→イライラしたし顔も見たくなかった。 • 頭を叩かれた→悔しくて、次は勝ちたいと気合いが入った。 • ボールを何度もなげられた→切なかった。
ソフトボール部
<ul style="list-style-type: none"> • バットで叩かれた。→痛い・・・体罰とは思っていません。 • ケツバット、ビンタ、ボールを投げつける。→周りから見たら体罰かもしれないが、自分はそう感じなかった。 • 殴られた→上手くなって見返そうと思った。 • 叩かれた→自分が悪いと思った。 • 顔を叩かれた→何も言えない感じ。 • キャプテンがヘルメットの上からバットで叩かれていた→キャプテンがかわいそう。 • 胸ぐらをつかんで投げ飛ばされた→怖かった。 • 喧嘩をした→自分が大人にならないといけなと思った。
バスケットボール部
<ul style="list-style-type: none"> • 顔を殴られたり、叩かれたり、ほぼ毎日→どうして自分だけなのか・・・と。

<ul style="list-style-type: none"> • 平手打ち→愛のムチだと。 • 意味のわからない体罰を受けた→今でも理由が分からなく嫌な思い出である。 • 叩かれた→自分のためだからよかった。早く終わってほしい。 • いろいろ→日本一を目指すため先生を信じていたので嫌ではなかった。 • 顔をグーで殴られた→ムカついた。 • 殴られた→次どうすればいいか考えた。 • 頭を叩かれた→自分のことを思ってくれていると感じた。
サッカー部
<ul style="list-style-type: none"> • 蹴られた→反省よりも悔しさや、「なぜ」という気持ちのほうが強かった。 • 頭や足を殴られたり蹴られたり→面倒くさかった。 • 服を引っ張られ飛ばされた→スポーツが楽しくなかった。 • 顔を叩かれた→痛かったけど、悔しかった。 • 思いっきり蹴られた。→自分に力がないんだと思った。 • 殴られた→ムカついた。
ラグビー部
<ul style="list-style-type: none"> • 蹴られた→びっくりした。 • 1 発殴られた→自分はなんて悪いことをしたんだと反省した。 • 殴られた→納得いかなかった。特になし。 • 平手打ち→やめる。だるかった。 • 尻を蹴られた→嫌な気持ち。
バレーボール部
<ul style="list-style-type: none"> • どつかれた→自分が矛盾しているのにどつくな!と、腹立たしかった。 • 叩かれた→自分は関係ないのになぜ叩かれたのか??? • ビンタ→自分をもっとしっかりとやらないといけな。されて当たり前だと思った。自分に弱い心に喝を入れてくれた。自分がやらないと!という気持ちになった。
陸上競技部
<ul style="list-style-type: none"> • ボディブロー→だるい。 • グーで顔面へ→意味が分からない。
剣道部
<ul style="list-style-type: none"> • ビンタ→痛みが分からないほど強かった。しかし自分でやってしまったことと、気持ちの隙があったことに気付いた。 • プラスティックファイルで殴られた→怖かった。
バドミントン部
<ul style="list-style-type: none"> • 平手打ち→だるかった。 • ラケットや靴をなげられた→意味が分からなかった。
レスリング部
<ul style="list-style-type: none"> • 顔面をグーで→勘違いやん。

3. 今までクラブ活動中、一番印象に残っている「言葉の暴力」について

どういことを言われて→どう思ったか

野球部
<ul style="list-style-type: none"> • バカ→バカって言ったほうがバカなんだぞ! • 一回死んで生まれ変わってこい→びっくりした。 • 罵声→甲子園に行くために仕方ない。 • さっさとやめて実家に帰れ→もっと野球を頑張りたいと思った。 • だからお前はだめなんだ→マジでムカついた。 • ゴミ クズ ヤメロ→何も思わなかった。 • 1年→ゴミ呼ばわり 2年→天皇 3年→神様→非常に嫌な思いをした。 • メンバーに入るな→悔しい気持ち。 • 文句を言われた→腹がたった。
ハンドボール部
<ul style="list-style-type: none"> • バカ女→はぁ?クソ! • いくらやってもうまくならん→そんないわなくても。 • そんなに足が痛いたらコートから出る!→痛みを分からないのにそんなことを言われる必要はない。悔しかった。 • バカ→ハイハイと流していた。 • チームに必要な→悲しかった。 • 高校のやり方を否定された→傷ついた。やめようと思った。
ソフトボール部
<ul style="list-style-type: none"> • お前はチームのなんなんだ? チームのクズ→少し気持ちが下がった。 • ボケ、アホ、帰れ→とても悔しかったが何くそと思った。ボケ?
バスケットボール部
<ul style="list-style-type: none"> • 貴様!それでも生きてる意味があるんか?殺してやりたいね→腹が立った。 • 「バカ」→期待していない人には何も言わないと思う。そう感じたことはない。 • バカ→指導とは違い個人のことを言われたので嫌でした。 • くさっている・クズ・カス→失望 • バカ アホ→悔しかった。
サッカー部
<ul style="list-style-type: none"> • やめろ→やめてやる、と思った。 • 試合に出ていたのか?と終わってから言われた→クラブを辞めたいと初めて思った。 • クソ→プレーで仕返ししてやろうと思った。 • サッカーをやめろ→ムカついた。
ラグビー部
<ul style="list-style-type: none"> • カス・死ね・帰れ→落ち込んだ。

<ul style="list-style-type: none"> • 死ね 殺すぞ しばくぞ 後でボコボコや 殺されたいんか→殺意しかなかった。
バレーボール部
<ul style="list-style-type: none"> • 何をしてもムダ→自分なりに頑張っていたが、やっている意味がないと感じた。 • 人数ばかり集まって→本当に情けないと思った • 一人の選手にお前は死神だと言っていた→強くなってほしいと思った。
陸上競技部
<ul style="list-style-type: none"> • 死ね→もやもや。 • 立たされて「お前みたいに練習しても伸びないやつは高校の恥だからやめてくれ→そこまで言うことはない・・・と。 • お前には才能がないと言われた→絶対強くなってやる! • いろいろ→理不尽。 • 早く辞めろ→悔しすぎる。
剣道部
<ul style="list-style-type: none"> • 首吊って死ね→また言ってると思った。
バドミントン部
<ul style="list-style-type: none"> • 暴言→面倒くさい。 • 負け犬→まさに意味がわからなかった。
レスリング部
<ul style="list-style-type: none"> • やつあたり→しかたない。

Ⅳ. スポーツ指導者の立場からの考察

1. スポーツ指導中の体罰は指導者として賛成派の意見としては、「できれば、体罰はしたくない。」という意見が多かった。
2. スポーツ指導中の体罰は指導者として反対派の意見としては次のような意見が多かった。
 - 「チャラチャラしていた自分を納得させるような説明のうまさと、高い技術力だけで、大学にいてまでスポーツができるように指導してもらえたから。」
 - 「体罰なしでも指導ということはできると思う。」
 - 「小学生には楽しくスポーツすることを学んでほしいから。」
 - 「自分は厳しくはするが、体罰では指導できない。」
 - 「自分がされていやだったから。」
 - 「小学生には体罰は必要ない。楽しいということを知ってもらおう。」
3. スポーツ指導中の体罰は指導者として時として賛成派の意見としては次のような意見が多かった。
 - 「それだけ必死になっている証拠だから。正面から

ぶつかり、分かり合えるまで指導したい。」

- ・「生徒の多くは言葉で理解してくれると信じているが、それでだめな場合はやむを得ないと思う。」
- ・「気まぐれや自分の感情だけで体罰を行うのは許せないが、限度を超えたことに関しては体罰をしようかもしれない。」
- ・「今、頑張っしてほしいというときに体罰をしてしまうような気がするが、手は出さない。」
- ・「体罰を肯定はしないけれど、仕方のないことだと思う。」

以上のように体罰の賛成派の数は少なく、「必要であるが体罰はできるだけしたくない」という意見がほとんどであり、また、反対派の意見として多かったのは「体罰なしでも指導ということはできると思う。」これは良い指導者に恵まれたことが一因している。一番多かったのは時として賛成派であり、「信頼関係」という言葉がキーワードであり、それぞれの立場で考えると「感情」という言葉が多く意見の中で出てきている。つまり、感情だけで体罰を行うことは許せない。という意見に集約される。

V. スポーツを強くするための指導者に必要なものは何か

どのような指導者であればついて行けるかという視点から学生たちの意見をまとめてみた。

- ① 個人にあったトレーニング方法を考えてくれる指導者。
- ② 人間関係、仲間との関わり方が重要であることを教えてくれる指導者。
- ③ 追い込んだ練習ができる指導者。
- ④ チーム内競争をうまく引き出せる指導者。
- ⑤ 選手との信頼関係を築ける指導者。
- ⑥ 精神的バランスを考慮できる指導者。
- ⑦ 選手の目線に立つことができる指導者。
- ⑧ 女子と男子の差がわかり、性差に合ったプログラムを作成することが出来る指導者。
- ⑨ すべてを教えるのではなく、選手にも考えさせることができる指導者。
- ⑩ プライベートでも相談にのってくれ、頼りになる指導者。

以上のことから、指導者は、感情的な面と生理学的・

運動学的など、いろいろな視点から見て指導しなければならない。また、ほめて伸ばすパターンと怒って伸ばすパターンの2パターンをうまく使い分け、どちらにしても「愛情をもって」指導するべきである。

VI. 結 論

この2年間、体育社会学を講義する中で、このようなアンケート及びインタビューをもとに考察してきたが、日常的に体罰を受けて育つと、いつの間にか体罰に対する免疫ができてしまい、もし、彼らが指導者の立場になった時、再び、体罰を繰り返してしまう危機感がある。

スポーツが人間教育の有効手段であることは間違いない。しかし、スポーツとは本来「楽しむ」ものである。そのスポーツの本質を「体罰」がゆがめてしまっている。

そして、学校の部活動の体制は以前に比べ変容してきている。ボランティアでがんばってきた先生方にも限界が見えてきていることが残念である。学校の先生に個々に任されている部分が多かった部活動はカリキュラムもなく、指導書もないという意味で個性を生かせる場であった。それが、指導力のない指導者が最低の指導方法である体罰をすることにより、問題視されている。逆に言えば個人の先生の信用がなくなってきた、極端にマイナス方向へ考えられている。

チーム競技であれ、個人競技であれ、指導者と選手とは一対一の関係が基本であり、選手の能力を引き出し、伸ばし、本人がなりたいたい自分に近づくための手助けだとすれば、なによりもまず、両者の間に良好なコミュニケーションが求められる。そしてこの点こそが、体罰を生まない方法である。

参考文献

- ・三住二不二（1966）、「新しいリーダーシップ」－集団指導の行動科学－，ダイヤモンド社
- ・加賀高陽・中田典昭（2003）、「このままでいいのか？中学校運動部」，東京図書出版会
- ・体育社会学研究会（1976）、「体育・スポーツ指導者の現状と課題」，道和書院
- ・スポーツネットワークジャパン（2008）、「特集 体罰を考える」，スポーツゴジラ第7号

（平成21年11月26日受理）